

神のガイドライン

1. 後の雨への5つの過程。どこから始めるか：
 - a. 「教会が生きた教会となり、働く教会になるとき、[生きた教会になる場合、教会は働く教会であるに違いない]」（CS 83）。
 - b. 聖霊は彼らの心からの願いに対する答えとして与えられるでしょう。
 - c. そのとき、神の御言葉の真実は新しい興味をもって尊重されるでしょう。
 - d. そのとき、彼ら[教会員]は拒絶されることのない真剣さをもって、心から嘆願するでしょう。
 - e. そのとき、後の雨を降り注ぐために天の窓が開かれるでしょう。（R&H、1890/2/25）
2. 「私たちの教会に行き渡っている宗教的奉仕の繰り返しという単調さを妨害する必要がある。教会員が新しいラインに沿って働き、新しい方式を工夫するように、活動に変化を与えるものが紹介される必要がある。この死んでいて生命がない単調さが壊される時、聖霊の力は心を動かすでしょう。また、怠惰な傍観者でしかなかったような多くの人が熱心に働き始めるでしょう。」（TM 204）
3. 「誰でも、安息日の集会を興味深いものとするために、なすべき働きがあると思うべきである。あなたは単に形式の問題として来るのではなく、考えを入れ換えるために、毎日の経験を物語るために、感謝の表現のために、神の啓発を真実に願望していることを口に出すために、それによって神と神が送られたイエス・キリストを知るために来るのである。キリストについて語り合うことは、人生における試練や戦いに対して魂を強めるだろう。クリスチャンでありながら、自分自身のうちに自分自身を退かせられると思ってはいけない。各々は人類という大きなクモの巣の一部であって、各々の経験はその仲間の経験によって大部分は決定されるのである。」（6T 362）

「私たちは集まりを止めないように強く勧告されているが、その集まりは単に自分たち自身を元気づけるためのものではない。私たちは、自分たちが受けたその慰めを与えるための、より大きな熱意を呼び起こさせられるために集まるのである。」（6T 365）
4. 「もしもクリスチャンたちが、ひとつの目的の完成のために、唯一の力あるお方に従って、一体となって前進しながら協力して活動するならば、彼らは世界を動かすだろう」（「教会への証し」第9巻、221 ページ）。
5. 「教会同士で、最も単純なやり方での働きが考え出され、実施されるべきである。もしも教会員が一致してそのようなプランを受け入れ、根気よく遂行するならば、豊かな報いを刈り取るであろう。なぜなら、そこで次第に希望の持てる経験をするようになってゆき、能力は増してゆき、取り組みを通して魂が救われてゆくからである」（「教会への証し」第6巻、433 ページ）。
6. 「教会員がメッセージを伝えるために熱心に努力する時、彼らは主の喜びのうちに生き、成功を経験するであろう。勝利は常に確固たる努力に続くのである。」（7T 30）